



新たな“区における行政への参加の場”－川崎区地域デザイン会議－

【1 地域デザイン会議の検討経緯・現況】

本市では、平成18年から6期12年間にわたり、区民によって構成される「区民会議」を各区に設置し、参加と協働による地域課題の解決に向けた取組を進め、様々な活動の成果を挙げてきたものの、委員の数や任期が定められているなどの制度運用における課題等も生じたため、区民会議制度については、平成29年6月をもって休止しました。その後、検討を重ね、令和3年5月には「区における行政への参加の考え方」をまとめ、より多くの市民が関わり参加しやすい機会を拡充する機能を充実させるなど、区民による対話の場「地域デザイン会議」を創出し、各区の創意工夫によって、様々な形式での実施を予定しています。

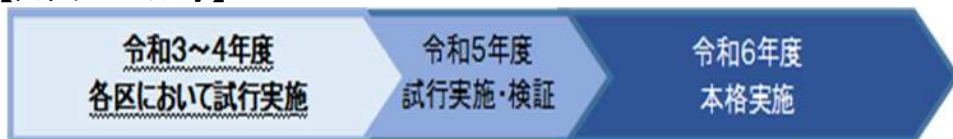
※ 「地域デザイン会議」…地域をみんなでつくっていくという思いからの着想であり、名称は、区名を冠した「地域デザイン会議」とする。

川崎区地域デザイン会議

【2 会議開催にあたって】

- ◎ 旧・区民会議や各種会議等で把握したさまざまな区の課題の中で、特に取り組みたい題材(課題・テーマ)を区において選定し、題材に応じた関係者に参加を依頼したうえで、協議の場として設定
- ◎ 議論する題材によっては、複数回を開催、会議の実施形式は自由
- ◎ 区内外での横展開や団体間の連携を想定してつなぐ等、課題解決に向けた意見聴取等を実施

【スケジュール等】



- ◎ 令和3～5年度までを試行期間とし、令和6年度から本格実施
- ◎ 今年度は3月23日(水)午前10時から区役所会議室にて実施

【3 会議で取り上げる課題・テーマ】

さまざまな地域課題のなかでも、これまで経験したことのない感染症の影響から、生活困窮家庭が増加傾向にあるなか、小・中学校の休校によって給食などの食事が取れなくなる子どもたちのため、併せて支援の居場所を失った子育て家庭の孤立化の防止のため、多様な主体が連携しながら見守り支え合う地域づくりがより一層求められています。

「食糧支援を通じたつながりづくり」

～これまでの食糧支援を通じた子育て支援策について振り返りながら、コロナ禍を踏まえて今後の食糧支援を通じた地域におけるつながりづくりの手法等について検討する～

【論点・流れ】

- ① 居場所・交流機会の確保と食糧支援を兼ねた「こども食堂」の運営による手法が通常化

これまでのこども食堂等での居場所づくりや支援の実施状況について、各事業者等による説明

感染症の拡大状況により、多くの人を1か所に集めて交流したり、支援することができなくなり、新たな手法による支援が必要

感染症の影響などにより発生した子育て支援への課題や問題点の意見交換

- ② 感染症などへの対応を踏まえた新たな支援手法としての「お弁当配布などによる支援」などの実施

「こども食堂」でつながった家庭に対する“見守り”を継続でき、また、父子家庭などの、新たな支援家庭等の発掘(の可能性)につながる

課題やさまざまな手法について説明、意見交換

- ③ 団体等による支援を通じて要支援家庭を継続して“見守る”ことで、支援を必要とする子ども・家庭からの信頼を得られ、団体等から個別支援(行政)への橋渡しの可能性が生まれる。